

先例政典集成

此書武家殿制録ト全ク  
同書

芝  
第 二百九十一函

庫	文	閣	内
一	三	三	和
函	三	三	書
二	九	八	門
一	冊	六	類
架		號	

和書門類			
三	三	三	八
一	〇	九	函
三	九	冊	架

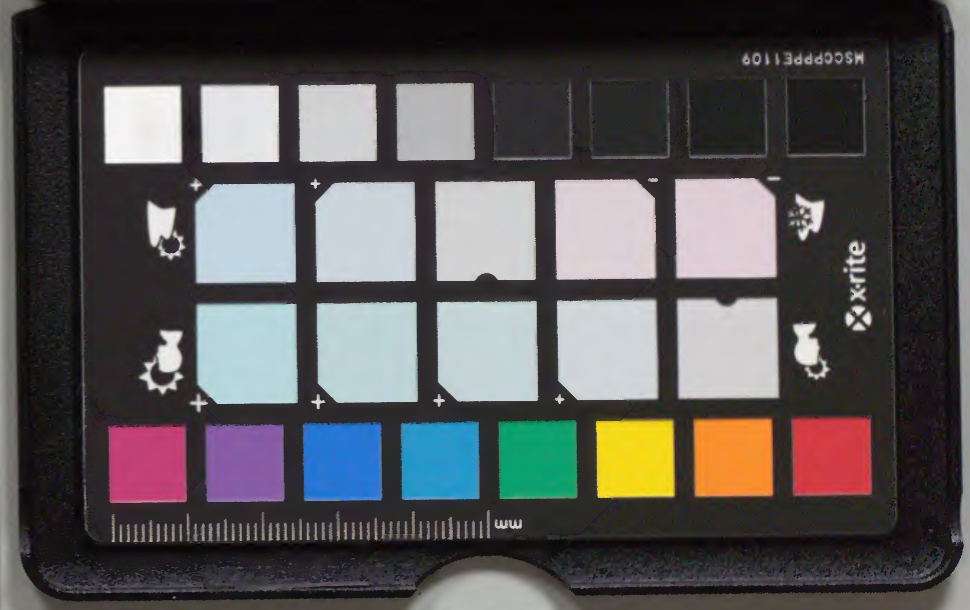
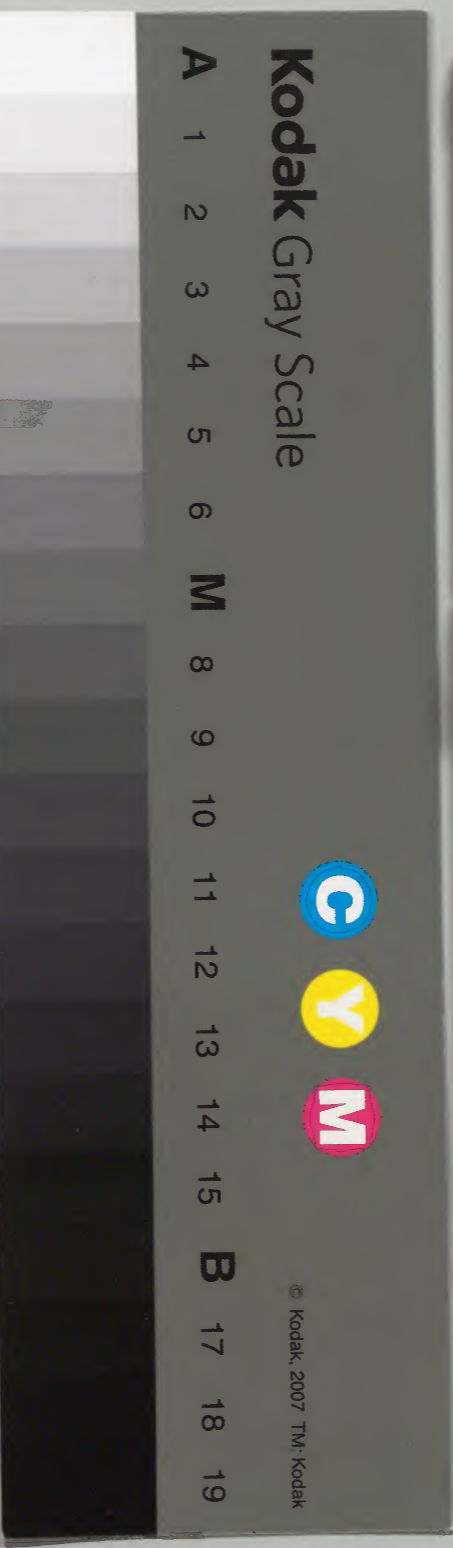
和書  
三三三六號

共十八

内閣文庫		
番號	和	33386
冊數	39 ( 1 )	
函號	181	127

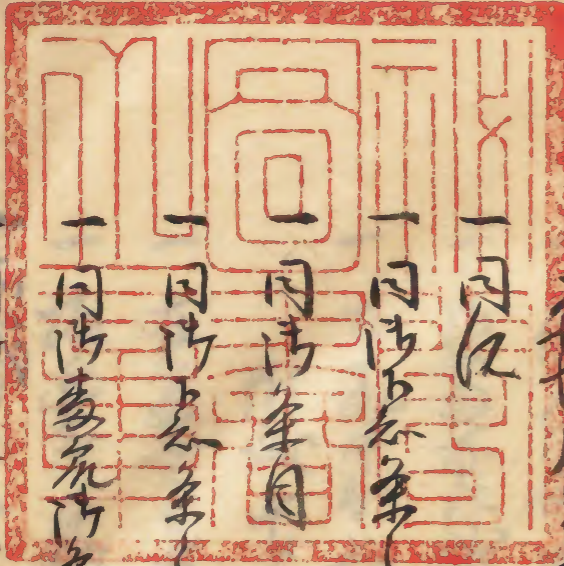
第七

181-127



縦じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり





一曰清下系

一曰清上系

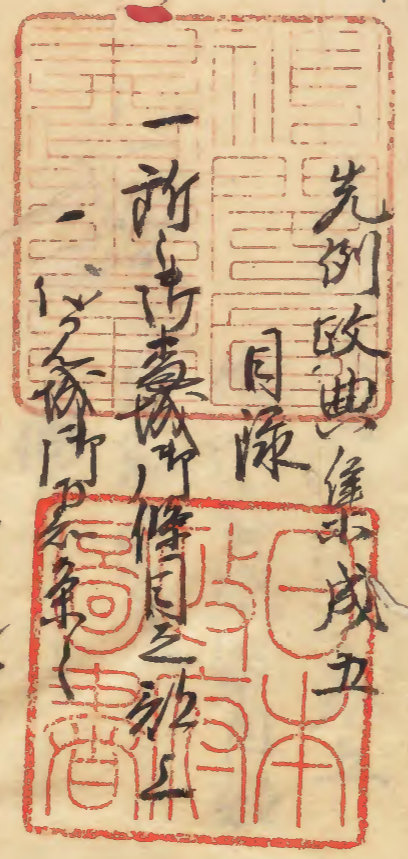
一曰清中系

一曰清左系

一曰清右系

一曰清

一曰清



先例政典集成五  
目錄

一曰清

一曰清

日七

日七

日七

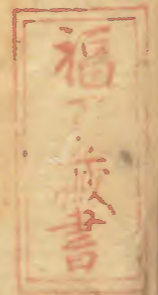
日七

日七

日七

日七

日七





一 可

寛文八年...



Faint handwritten text in the upper section of the right page.

Faint handwritten text in the lower section of the right page.

先例政典集成卷五

所印番城印事目録

一 佐々城印事目録

一 備

- 一 佐々城印事目録
- 一 佐々城印事目録
- 一 佐々城印事目録
- 一 佐々城印事目録
- 一 佐々城印事目録
- 一 佐々城印事目録
- 一 佐々城印事目録
- 一 佐々城印事目録



一 大田忠興等御奉行

一 大田忠興等御奉行

一 大田忠興等御奉行

吉山島事功

吉野討馬番

吉野之旗隊

河井親平

井伊持統院殿

河井親平

一 後醍醐天皇御即位

一 皇太子御即位

一 皇太子御即位

一 皇太子御即位

一 皇太子御即位

寛永二年七月七日

河井親平

河井親平

河井親平



一日

定

一 自見の故有之三人お後上りより其が徳にうりて承るべき  
 勿論云々其が加事あると一切城の事あり  
 一 正徳年して大坂藩よりお九て九一切入り  
 一 ありと撰れ如きと抱えり  
 一 大坂におき其名を承りて下知候也

○寛三年八月廿六日

内右方カの  
 係科陸軍カの  
 本館松はカの

一 四申書を承終る不意如き不意候と申分り  
 一 大坂お守此を去之仍撰進書  
 一 附の海池茶入急下り政事序如き事あると承り  
 一 此と有之茶池申望候事候と承り

明暦二年六月九日

量後判

信長判

頼業判

松平丹波守殿

井上院主殿

井上院主殿



神保不系  
三宅右衛門

一日

定

- 一 自是市城之示火事時所出諸書紙帳等以表元再 亦未至是年秋
- 一 市城中其火年所下計之少以之 備左之有表元者持表元之的
- 一 西書及西書元表元之有也
- 一 市加表元之有也其定表場亦未至是年秋以市城中其火後神也
- 一 市城代家高元火之有也其方之表元之防也
- 一 市定表元表元之有也其方之表元之防也 西中其有也

此之趣在志下りて 一切五也 自是市城之示火事時所出諸書紙帳等以表元再 亦未至是年秋

一 西中其有也 時其云一切五也 自是市城之示火事時所出諸書紙帳等以表元再 亦未至是年秋

一 市城中其有也 時其云一切五也 自是市城之示火事時所出諸書紙帳等以表元再 亦未至是年秋

一 市加表元之有也 時其云一切五也 自是市城之示火事時所出諸書紙帳等以表元再 亦未至是年秋

一 市定表元表元之有也 時其云一切五也 自是市城之示火事時所出諸書紙帳等以表元再 亦未至是年秋

一 市城中其有也 時其云一切五也 自是市城之示火事時所出諸書紙帳等以表元再 亦未至是年秋



一 爲政の目録 五ノ死ハ横内ヨリテ事モ又ハ多ク歎ク事也

一 所事元新ト云ハ改治事也 諸君列ノ事ト云々

一 西ノ事ト云ハ托神ノ事也 一 切事元ノ事ト云ハ不道者也  
ト又討殺ノ事ト云々

一 法皇云ハ皇業ノ事也 西ノ事ト云ハ改法職ノ事ト云々

一 名高キ事ハ所産西事ノ事也 一 切事元ノ事ト云ハ不道者也  
おのゝくたふ事

寛文十三年六月二十日

大系ノ事 一 乃何法也

板門監正判

大徳馬判

大坂

定番中

一 同法下之條

定

一 大坂市中ノ事 一 乃何法也 一 乃何法也

一 又ハ今所ノ事ト云ハ 一 乃何法也 一 乃何法也

一 一 乃何法也 一 乃何法也 一 乃何法也

一 一 乃何法也 一 乃何法也

一 一 乃何法也 一 乃何法也



一 法城軍は入寇の憂に下りて其の軍勢甚だ方儀に如し是を  
其の所を去りて之に對す

一 法城軍は其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す  
以下に其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す  
法城軍は其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す

一 法城軍は其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す  
下りて其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す

一 田中切を實際に不意に之を斬りて下りたり

一 松列の石下は其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す  
和東軍は其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す

一 加藤公常は其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す  
下りて其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す

一 石下切を實際に不意に之を斬りて下りたり

一 松列の石下は其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す  
和東軍は其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す

一 西軍は其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す  
下りて其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す

一 法城軍は其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す  
下りて其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す

一 法城軍は其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す  
下りて其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す

今之を去りて之に對す

一 法城軍は其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す  
下りて其の軍勢甚だ方儀に如し是を其の所を去りて之に對す



大工の考は是也の執事也

年月日

一日法番所年月

条

一 萬石の所は是等考事は後所より迄あり

一 庄境の御割材あり是等考事は別所より是等考事あり

一 如き考事と見えたるは是等考事あり

一 是等考事は是等考事あり

一 自然考事は是等考事あり

大工の考は是也

年月日 所

大工の考

一日法番所

条

一 萬石の所は是等考事あり

一 庄境の御割材あり是等考事あり

一 如き考事と見えたるは是等考事あり

一 是等考事は是等考事あり

大工の考は是也の執事也

年月日



一 所城中下之系

定

一 大坂所城中下之系

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違

一 因後方相違



上意に依て下意に成るべし若し其の如く云ふに仕法は  
一不意の事候に候はば其の如く候へば其の如く候へば  
一右の如く候へば其の如く候へば其の如く候へば

寛文六年五月十五日

但馬守

大和守

伊豆守

雅平守

一 上意に依て下意に成るべし  
一 不意の事候に候はば其の如く候へば  
一 右の如く候へば其の如く候へば其の如く候へば

長山園懐古

茶付おねさ

一 上意に依て下意に成るべし  
一 不意の事候に候はば其の如く候へば  
一 右の如く候へば其の如く候へば其の如く候へば  
一 上意に依て下意に成るべし  
一 不意の事候に候はば其の如く候へば  
一 右の如く候へば其の如く候へば其の如く候へば  
一 上意に依て下意に成るべし  
一 不意の事候に候はば其の如く候へば  
一 右の如く候へば其の如く候へば其の如く候へば

俵科通守

長坂守

石丸守



目錄

一 新刊書城所集目錄

一二集城所集目

一 同所下各集

一 後府城所集目

一 同所下各集

一 同日

寬永十七年三月七日

同日

明曆六年六月九日

同日

寬文三年六月十日

先例改典集成卷六

一二集城所集目

案

一 可高法印名案相守之書以紙以中後我所以不遠寄友

一 應流編輯別題之書以紙以中後我所以不遠寄友

成り致書之書以紙以中後我所以不遠寄友

附之書以紙以中後我所以不遠寄友

一 自他書所取取者之書以紙以中後我所以不遠寄友

右之書以紙以中後我所以不遠寄友

寬永十七年三月七日

所集下



一 同下を多々

条々

- 一 所書元外令法事あり停止事
- 一 所書元外武具兼切道具之類あり
- 一 所書元外根也一切禁止陸揚常支取所根也之類も二付
- 一 之草此如く者吸り以下元外令用内之返之書信あり
- 一 大之取也 此多々也仍概道如得

寛永七年三月七日

對島古判

其後古判

信是古判

一 後府城所集同

定

- 一 自見此年之由人再書沈責取後之万子其何能取下也
- 一 友人内分御書流事向之と一切取れ不之知り
- 一 一書分年之後府在事外如元元一切不之たり
- 一 一知下之と權取如之と福知り
- 一 大是之取也此年外自奥取下之知也

以曆二年八月 冲馬下

松平母波古の

井戸新たりの



一 国許の事

定

- 一 後府内松中純美事以中第古札族立し下が所之今所見し  
去所事二倍の難言たりと云ふ事ありと云ふ事あり
- 一 丹波古新左の事古系古力日下佐共を源色に改め古事古  
直宗徳代面、存すしと云ふ事あり其元を古に改められたり  
乞入に古後子
- 一 市城事所入古事古中分し古之直宗古方古所  
に改めり
- 一 山後地所古事古も古之直宗古下古所古ありと云ふ事あり古事古  
は古事古法古事古も古之直宗古改められたり古事古

一 国許の事

定

- 一 土坂地所古事古中分し古之直宗古改められたり古事古  
今所見し古事古も古之直宗古改められたり古事古
- 一 山後地所古事古も古之直宗古改められたり古事古  
今所見し古事古も古之直宗古改められたり古事古
- 一 市城事所古事古も古之直宗古改められたり古事古  
今所見し古事古も古之直宗古改められたり古事古
- 一 山後地所古事古も古之直宗古改められたり古事古  
今所見し古事古も古之直宗古改められたり古事古
- 一 市城事所古事古も古之直宗古改められたり古事古  
今所見し古事古も古之直宗古改められたり古事古
- 一 山後地所古事古も古之直宗古改められたり古事古  
今所見し古事古も古之直宗古改められたり古事古



おのれは分たうぬぬの

一 津波炮の業念をいふ事の中は経年換り業をいふ事の中は

一 是れも有之業蔵の所は不信の所は此の二語あり

一 町中切の事せうく不意如く不意にわたりて事なり

一 松原の列万の仕舞の事業年芳秋茂古松原集(三)年外(松原集)

一 石の去傳と事なり

一 おおま節何篇の事おま事なりとて事と合避く不苦の事とて事

一 付く事及南島有之民の不及に上意を力を示し(不換は国防と

一 水井伝流と事なり

152/20/14

上意なり

一 津波炮の業念をいふ事の中は経年換り業をいふ事の中は

一 是れも有之業蔵の所は不信の所は此の二語あり

一 町中切の事せうく不意如く不意にわたりて事なり

一 松原の列万の仕舞の事業年芳秋茂古松原集(三)年外(松原集)

一 石の去傳と事なり

一 おおま節何篇の事おま事なりとて事と合避く不苦の事とて事

152/20/14

兼意三の八の事

其後守

信是古

雅系取



内府常河原  
佳科法室及

一日法集目

定

- 一 自持の御車にのりて後へて百の御伺修極上平其来之
- 一 此の御車に大書以加多、茶一切城の石置り
- 一 今書月々の板書、茶一切城の石置り
- 一 知りてと探定ぬえと抱節の
- 一 古事、案に書しは布、裁下念休也

辛号月日 所下下

久大和判  
編頁法古判  
石雅集判

松平左近将史及  
所半院書及中  
天方至馬及  
長田六左及  
富永清及



目錄

法皇御統信中法條目十一

一 淨土宗法條目

之和元年七月

一 淨土如土流法條目

同日

一 浄土十刹法條目

同日

一 大德寺法條目

元和元年七月

一 淨土寺法條目

同日

一 永平寺法條目

同日

一 持燈寺法條目

同日

一 真言宗法條目

同日

一 久遠寺法條目

同日

一 普門宗法條目

同日

一 永平寺法條目

同日

先例政典集成卷七

法皇御統信中法條目

一 淨土宗法條目

淨土宗法條目

一 智身院之變 三 寺之門 法皇御統信中之法條目

一 淨土寺之變 定法後寺也 規式 十念 各 法條目

一 淨土寺之變 中法皇御統信中之法條目

一 淨土寺之變 戒律 規式 淨土宗法條目

淨土宗

一 對在法皇御統信中之法條目



一治世之變也... 治世之變也... 治世之變也...

一紀明之... 紀明之... 紀明之...

一北... 北... 北...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

一... 一... 一...



一 前後二卷并事

一 抄本此古语舍命公逆杯后之平语（上七列并事）

一 系语分中多列法不常法家者（增集六回初）中下后上及中

一 云身语似依源慈云（奉卷）自封上死改德慈云（奉卷）今并

一 法号中恒持月已（法号）力全世（法号）方身（死信）等不

一 免不（法号）下后回前事

一 向後流系法号（事）法号大小集调致所（二）年一及充

一 白田抄并事

一 世（信物）本语（分）法号（普）及目（系）也（分）及更（目）是

一 抄本（因）得（事）自抄（更）重（法）年（初）（下）并（事）

一 未法（守）家（法）号（抄）下（法）过（法）号（抄）并（法）号（抄）下（法）号（抄）

抄了更

一 一向（信）号（通）人（系）封（乃）法（後）十（五）抄（界）也（血）脉（更）法（城）月（今）

一 法（号）下（法）号（抄）

一 西院（崇）本（法）号（抄）乃（法）後（十）五（抄）界（也）血（脉）更（法）城（月）今

一 法（号）下（法）号（抄）并（事）

一 号（佛）号（佛）（法）号（抄）并（事）

一 信（所）表（本）法（号）抄（下）有（法）号（抄）并（事）

一 抄（了）更（事）

一 抄（了）更（事）法（号）抄（下）有（法）号（抄）并（事）

一 抄（了）更（事）法（号）抄（下）有（法）号（抄）并（事）

一 抄（了）更（事）法（号）抄（下）有（法）号（抄）并（事）



安和清信尚平信物志

一 初歲十人空信物志

一 法原市元元其心於法原地志

一 一初年並記元元法原市志

一 法原市元元法原市志

一 存元元法原市志

一 或流飛式一脫布上表

一 元初年記元元法原市志

一 法原市元元法原市志

一 法原市元元法原市志

一 法原市元元法原市志

一 法原市元元法原市志

法原市元元法原市志

一 初元元法原市志

一 地速令元元法原市志

一 元元法原市志

一 元元法原市志

一 元元法原市志

一 元元法原市志

一 元元法原市志

一 元元法原市志

一 元元法原市志



一系或约更血脉和承之也  
 一此法所以不用卑核仕元造門律表詳也  
 一送子門中校家亦不能任也  
 一此法所以保後卷思先嘗流厥  
 一此法所以保且神

一書家論名取載子中此法世流為就借借三偏之候年  
 已年以合机舉之子是例臨臨表不依商宗甚信之月今後  
 後四例法之至皇之新既之時是奉少偏方之天教子  
 右字書以方為也

元和元年己卯七月日

一丑山十利之涉陳目

一山十利 法之涉陳目

一東現為現信法者之為也  
 一系佛之教林典章甚之神物之在年候信下高水信燒  
 一欲及通佛者向後之痛也  
 一西極之山源世表云佛寺法業在亦系於法念也  
 一十利法之出世入流再案俄式下之先觀也  
 一南極之系系法也  
 一進道者之年祥之行也  
 一住名信之必如人者乃其法也  
 一若地山之上下高深也







一 改疏在詔之日定親下為傳告他處乃為疏或若小或大或

下將諸事

元和元年己卯七月日

私曰心年涉德月水之

一 永年寺御修目

永年寺法修發

一 至世年際行改江船以治年地有地衣之元元嗣法佛也推奉  
狀改定心年地提當寺純德奉降福有心之出世佛無之修發

附北平年地行年早之不出法修發

一 出世戒為去乃論方之同修發

一 出世戒之苗子格行守乃為國行仁念修發守執行附下之

用之乃方外一切不之同修發

一 至世年際行改江船以治年地有地衣之元元嗣法佛也推奉

一 同日雷附宗之志流必先親乃為苗子之例年

右至年法發執法之出家者衣忌用修發卷例遠法制之人

一 出世戒之苗子格行守乃為國行仁念修發守執行附下之

一 出世戒之苗子格行守乃為國行仁念修發守執行附下之

元和元年七月日







一 破戒之害比此下合流操也

一 破戒之害比此下合流操也

一 破戒之害比此下合流操也

一 破戒之害比此下合流操也

一 破戒之害比此下合流操也

一 破戒之害比此下合流操也

一 破戒之害比此下合流操也

一 破戒之害比此下合流操也

一 破戒之害比此下合流操也

一 破戒之害比此下合流操也

一 破戒之害比此下合流操也

古事考以古若遠者信流也

元初九年 七月日

一 久遠了涉傳目

定

甲子身延山

一 久遠了涉傳目

一 久遠了涉傳目

一 久遠了涉傳目

一 久遠了涉傳目

一 久遠了涉傳目

一 久遠了涉傳目







一、後漢入流存身沈嗣官字血脈年生孫山將初下班  
 後漢南地地心之是臣受一形之同下後文支  
 存傳水字年也子札形也 以平向負一亦信信也  
 為送犯家也之之不也

元祐七年八月七日



Vertical handwritten text in cursive script, partially obscured by the seal.

Vertical handwritten text in cursive script, appearing as bleed-through or faint impressions from the reverse side of the page.





加藤河原

